

# 第7回「大分ユーモアまんが大賞」最終審査会

日時：平成29年1月20日(金) 午後4時15分より

会場：別府大学 別府キャンパス 4号館4階 PC4教室



## 【審査員コメント】



### ○飯沼賢司（別府大学文学部長）

まず解らない作品が多くて、審査に当たってどう判断して良いか悩みました。世代の問題もあるのでしょうけれど、誰にでも解るといことが大切なわけですね。僕らの世代と若い人たちとの間にギャップがあるのかなあと感じました。



### ○吉田 寛（ユーモアコピーライター）

日常と非日常、社会性と反社会性、理屈抜きでゲラゲラ笑える漫画が僕らの子供の頃には沢山あったように思います…例えば赤塚不二夫先生とか。子供に夢を与えて、心の底から笑える漫画を待ち望みたいです。そんなきっかけが大分ユーモアまんが大賞から生まれる可能性はあると思うんですよ。



### ○ジ・アッチィー（プロレスラー・「大分プロレス」代表）

ワクワク感が大事だと思っています。シンプルで単純な作品が心に残ると思いますが、そういう作品が少なかった。ひねりすぎても、読者の心に引っかかるのが難しいと思うので、次回はそこを踏まえて、ユーモアがあって、ワクワクする作品に期待したいです。



### ○岩豪友樹子（歌舞伎・舞台脚本家）

特に一コマ漫画は解りづらい作品が多かった気がします。やはりユーモアも色々でしょうが、今回は本当の意味で、ゲラゲラ笑える作品が少なかったと思います。大分にちなんだ作品ももっとあっても良いのかなあ。より多くの多彩な作品が出てきて欲しいです。



### ○田代しんたろう（別府大学客員教授）

特に一コマ漫画を中心にユーモアの質とレベルが下降気味で、危機的に感じました。テーマに肉薄してアイデアのキレる作品が見当たりません。私も大学を退官しましたし、一漫画家として初心に戻り、自分なりに個性的なユーモア漫画の創作にチャレンジしたいと思っています。



### ○甲元 隆則（別府大学講師 アニメーション担当）

毎年一次審査中に思わずゲラゲラ笑う作品が必ずあったのですが、今回はそれがありませんでした。寂しかったです。一コマ作品も解りづらい印象が強く、選考が難しかったです。ですから、毎年応募されている実力者の方々が高得点となったのでしょうか。



### ○金 孝 源（別府大学講師 マンガ担当）

今年初めて担当をし、学びながら審査を行うことになりました。何より、誰よりも先に作品に触れられるということで、楽しんで審査に当たることができました。審査員の皆様がおっしゃるようにもっと多彩なジャンルの作品が集まるように努力したいと思います。